



武石 栄一 議員の質問

八十里越開通を見据えた道路整備および観光資源の連携について

Q いい湯らていの湯量、新たな掘削はどうか。足湯の設置は考えているか。

A いい湯らていのリニューアルに関する検討を進め、現在の供給可能量を確認し、市場ニーズを踏まえて判断する。

伝統文化である大谷地和紙の重要性について

Q 伝統を後世に継承するための設備整備など、市が全面的に支援、協力すべきではないか。

A 市の観光資源の一つであり、保存会との意見交換を通じ、検討していく。

下田地域の発展に係る環境整備について

Q 交付税算入率は、**辺地債が80%、過疎債が70%**である。これらの国の有利な制度を活用し、計画的に事業をすべきではないか。

A 辺地総合整備計画および過疎地域持続的発展計画を策定し、現時点

で事業化が公表されている事業を行っている。

市有地および市有林について

Q 集会所敷地について、市は関係自治会において、管理を含め、どのように対応していくのか。

A 維持管理は自治会で行い、寄付を受けた土地は無償で、市が購入した土地は有償で貸し付けている。譲渡希望の場合は譲渡に向けて対応する。

Q 学校林の活用はどうか。

A 現在活用はなく、今後の活用予定もない。



武藤 元美 議員の質問

災害対策について

Q 能登半島地震で倒壊したブロック塀の処理費用支援で、自然石など素材によって支援を区分した根拠は何か。

A ブロック塀は市の清掃センターで処理できるが、自然石は市内では処理不可能なため。

Q 自前処理が困難なら広域連携はできないか。

A 実際に受け入れている所と意見交換したい。



倒壊した自然石の塀

Q 避難所になる体育館に冷暖房設備は必須だ。整備すべきでは。

A 必要性は十分承知し、財政負担も大きいが検討している。

Q 防災関係会議にジェンダー視点反映のため、女性を一定数配置してはどうか。

A 現在女性の割合は1割。各団体に可能な限り女性適任者の推薦を働き掛けたい。



Q 防災士の養成を進め、強化を図ってはどうか。

A 防災士の養成は有効策と考え、今後研究したい。

Q 耐震改修の、全体改修の補助上限を拡充してはどうか。

A 市単独での増額は難しい。

Q 耐震改修等の補助で、代理受領制



岡本 康佑 議員の質問

近隣自治体間の広域連携について

Q 人口減少社会を考慮し、近隣自治体と合併はともかく、一部事務組合等を再構築する時期と考えるが見解を伺う。

A 近隣市町村等と連携することは事務効率には有効な手段の一つだ。今後望ましい形を研究する。また、周辺市長とあるべき方向性について意見交換を行う。

Q 県央他市町村の反応は。

A 今後意見交換したい。これまでも一部事務組合に限らず相互に協力、実施してきているため、協力体制が構築できると考える。

災害対応について

Q 地震の多い地域では防災用ヘルメット等を備え付ける学校が多い。三条市では検討したことはあるか。また、必要ではないか。

A 防災用ヘルメット整備の検討は今までない。ヘルメットを装着しないことを問題視しなければならぬ。貸与・支給・補助等どう取り組んでいけるか検討課題だ。

度はできないか。

A 市民の負担軽減の観点から検討したい。

Q 原発事故発災時の避難が問われた。原発再稼働は中止を求めている。どうか。

A 新潟県知事が総合的に判断するものとする。

就学援助の拡充を

Q 新潟市のように、物価高騰を勘案し学用品費等の拡充をしてはどうか。

A 新入学用品費については改定した。



小林 誠 議員の質問

東三条駅前ロータリーと駅前駐車場の利用について

Q 東三条駅を高校生の送迎で利用している方から、東三条駅前ロータリーの駐車スペースについて「何とかしてほしい」「誘導看板が見えにくい」等の声が寄せられた。どのような取り組みを行っているのか。

A セガエックスデューという会社から、ロータリーの混雑緩和を注意喚起し、東三条駅前駐車場へ誘導する看板の提案があり設置した。これにより駅前駐車場の夕方の利用台数は前年

部活動地域移行とスポーツ政策について

Q 部活動地域移行の中学生期だけでなく、市全体のスポーツ政策としてスポーツ推進計画を策定するべきでは。

A スポーツ振興の諮問機関であるスポーツ推進審議会で見解を聞く。

Q スポーツ需要が変化している。スポーツ課にしておいていくべきでは。

A 支障が生じる場合、組織体制の改編の検討が必要となってくる。



西村 邦明 議員の質問

不登校児童生徒支援員増員と小中学校の在り方について

Q 令和4年度の不登校児童生徒数が200人に達し、今後さらなる増加が予想される。現在、わずか3人しか配置されていない不登校児童生徒支援員の増員について市の見解を伺う。

A 令和6年度からは、現在の3人体制から6人増員し、9人体制で対応したいと考えている。9人体制とした場合、全ての学園に毎日1人ずつ配置することが可能となる。支援員が来る曜日のみ登校できる児童生徒が一定数いることから、支援員が在籍する日



夕方の駅前ロータリー
タクシースペースはガラ空き



ロータリー脇歩道のフェンスにある
駐車場への誘導看板

比1・7倍になるなど一定の効果は出ているが、抜本的な混雑解消には至っていない。
誘導看板は、文字が小さいとの指摘もあり、今後工夫したい。

Q ロータリー内のタクシースペースの見直しや、駅前駐車場の営業時間の見直しが必要ではないか。

A タクシースペースの見直しは難しい。人員の確保などから難しい。ただし、利用が伸びないということであれば、今後あらゆる手法を検討したい。



野崎 久雄 議員の質問

人口減少時代の税収の確保について

Q さまざまな分野で人口減少の影響

